京大山岳部報

No. 370　　'83　8月号

〔第1443回例会〕 加賀　白山　(T)

日　時　8月5日(金)～8日(月)　5日夕方発 予定

コース　京都ー福井北ー勝山(泊)ー白峰ー市ノ瀬ー別当谷出合…観光新道…黒ボコ岩…室堂…剣ケ峰△2702.2m…南竜ケ馬場ヒュッテ(泊)…別山△2399.4m…三ノ峰…六本檜…上小池…鳩ケ湯(泊)ー大野ー福井ー京都

担当者　高速 村 宗松、大槻貞従

〔第1444回例会〕 夏山トレーニング(1)

伊吹山　(T)

日　時　8月7日(日)

コース　京都ー近江長岡ー伊吹山登山口…三合目…五合目…頂上

担当者　本局 山元誠一(TEL 2291)

備　考　夏山合宿トレーニングを行きますが積極的に参加して下さい。

〔第1445回例会〕 二世登山

暁村八丁周辺　(R)

日　時　8月13日(土)～14日(日)

コース　京都ー周山ー井戸ー上黒田周辺(大堰川付近)キャンプ…小塩西谷…暁村八丁

担当者　本局 鷲見敏一(TEL 3435)　九条 田中忠久(TEL 2351)

備　考　子供中心の楽しいファミリーキャンプです。水泳や山登り等夏休みの一日を楽しく過ごしましょう。

〔第1446回例会〕 夏山トレーニング(2)

金毘羅

日　時　8月21日(日)

担当者　大槻雅弘(TEL 2266)

〔第１４４７回例会〕　夏山合宿

鹿島槍と五竜岳

（T）

日　　時　8月26日（金）～28日（日）　25日夜行発

コ　ー　ス　京都ー松本ー大町ー扇沢出合…種池…爺ヶ岳…冷池幕営…布引山…鹿島槍ヶ岳…五竜岳…五竜山荘幕営…唐松岳…八方尾根…白馬駅ー松本ー京都

担 当 者　烏丸　大倉寛治郎（TEL　2343）

備　　考　◎昨年の剣岳に引続き、若手中心の後立山縦走を計画しました。マイクロバスで行きますので希望者は担当者まで申し出て下さい。

◎本隊と1日遅れて、遠見尾根から五竜岳に登る計画を立ています。希望者は　本局　三橋（TEL　2215）まで連絡して下さい。

今月の集会

（机上講習）　山の天気　その2ー　（広瀬　烈担当）

8月9日（火）　下鴨寮

三角点でカンパイ

岡　田　茂　久

最近我々が、山行中のアルコールについてとかくいうものであるから、登頂して三角点で乾杯することが少なく味気ないという苦情がちらほらする。〝三角点でカンパイ〟スポーツ登山としての領域においてはもってのほかというべき行為であるが、未知の所、高い所に上り喜びを感じるという人間本来の性に導びかれての山行で山旅というべきものにおいては、その行を成し遂げた後にその喜びを素直に表すのに三角点で〝バンザイ・カンパイ〟というのは自然にして納得できるというものである。もっとも山の神にお供えし、そのお下りを頂戴するという大義名分をたてることもあるが…。

私が山に登りお酒を頂戴したのは、昭和３２年京交山岳部に入部し、初めての例会で初めての一等三角点丹波の長老山に登ったときからである。同行された京都山岳会の松浦長老（失礼！　当時からその様な雰囲気をもたれていた）が、椰子の実を半割にした杯をやおら腰から抜き取り丹波の銘酒〝長老山〟であったかは記憶にないが、お流れを頂戴した想い出がある。山に登る行為の仕上げとしていいものだと思ったことで、以来二十数年、幾多の山に登り幾度カンパイをしたことであろう。山頂においてのセレモニーとしては最高のものの一つである。しかし山行途中それも行動中にお酒を頂戴すればどういうことになるのであろう。

初秋の奥美濃のことである。ベースを出発2パーティに別れ対面する山をめざしそれぞれアタックした。猛烈なヤブ漕ぎで悪戦苦闘やっとの思いで頂きに到達した。腕の擦傷をなめながらトランシーバーで〝こちらAパーティただいま登頂しました。Bパーティ現在地をどうぞ〟〝ハーイ〟頂上まで約200mのコルです。もう少しですがただ今腹ごしらえしていまーす。〟〝了解、ガンバッテ下さい〟しばらくして〝こちらBパーティ、ネーチャンはきれいし、ビールはうまいし、もうでき上がってまーす。残念ですがここから引返しまーす〟〝あんなー おまあら…〟こういうことをいうのである。

アルコールというのは人体にいったいどういう作用をするのであろうか。まず効用としてはトランキライザー（精神安定剤）として作用をあげることができる。山頂を極めほっとした気持で大声でカンパイし頂く適度のアルコールは、緊張をとき山にいる幸せをしみじみと味わせてくれ、渇き切った喉を通りすぎる一口のビールもこの世にこんな美味いものがあったかとも思わせる。

しかし行動中であればこんなことはいっておれない。酒はアルコール・ブドウ糖など分解され易い物質で形成されているので、ふつうの食べもののように胃でこなされ小腸で除々に吸収されるというようなことではなく、大部分は胃で残りも小腸で速かに吸収される。そして門脈・静脈の太い血管で急速に肝臓に送りこまれる。ところが登山という激しい運動の最中では、発汗作用も活発で体の水分はどんどん失われ、おまけにアルコールは利尿作用があるから(の)水分は食塩と共に尿としても失われ、血液の濃度は高くそれにアルコール分の多い血液が肝臓を直撃する。又胃や小腸で吸収されたアルコールの一部は直接血液中の酸素と結びつき燃焼する。たださえ多くの酸素を必要とする登山ではますます血液中の酸素は不足し激しい疲労となって現われてくるのである。精神的な面からいってもアルコールの血中濃度が上がるにつれ、高等な精神作用がマヒしはじめて道徳観念等が薄れ、自然保護などくそくらえということになり、ルートハンティグはもとよりパーティの状況等も適確な判断がおぼつかなくなる恐れがでてくるうえ、こんなしんどいこともうやめじゃということになる。この様に登山中の飲酒にはひとつもいいことはない。他のスポーツでは1対0で負けました。次回は頑張りますということで済ますこともできる。しかし登山においては即アクシデントに結びつく可能性のあることをきびしく銘記しておく必要がある。

話は変わるが先般三角点でカンパイの折、寺院の門前に〝不許葷酒入山門〟とあるが、この〝葷〟は何を意味するかという話になった。この〝葷〟は女性のお白粉の匂いで女は山門に入れないという説や、いやいやニンニクのことで精がつくと不精なことを考え修行の妨げになるので入門を禁じる等、どうも熟年のいやらしさ女色からは抜けきらなかったようであるが、私の友人に禅宗の和尚がいる。ナマグサ坊主で妙心寺で修行中も花園駅前のスナックにボトルをキープした剛の者である。過日トビウオの造りとニラとイカのミソ和えでいっぱいやりながらただしたところ、さすが〝この葷はニラ・ニンニク・小ビル・らっきょう・ねぎのいわゆる五辛で、神事では古来不浄を去り、疫を払うものとして重用されるが、仏教では「五辛を食すると命を絶して無間に入る」として禁じた〟とのことであった。ちなみに禅？では酒のことを〝ハンニャ湯〟とはいわず、酒の字のつくりだけを読み〝酉（トリ）〟と呼ぶそうである。この和尚〝酉〟が好きなくせにめっぽう肝臓が弱く、当夜も〝喝

一つ。と洗面所にかけ込んでいたもようである。いづれにしても酒を飲むときは、良きさかな・良き友・良き話に良き酒を良き場所で飲むように心掛けたいものである。

第１４２９回例会

釈迦嶺　（冠山）

伊　藤　潤　治

美濃の山はほとんど、国境稜線から尾根つづきの山である。勿体ぶるようだが、釈迦嶺は、そこが一味ちがう。私の場合の釈迦嶺は冠山図葉で、美濃のしんがりの山である。その釈迦嶺の登頂を去る５月２５日（水）と予定したが、釈迦嶺ほどの山になると、変慕の志士の「こんな日の計画では同行不能だ」、そんなど不満があった。

この日は私のささやかな念願、３６５日皆登記録にかかわっていて、年に一度のかけがえのない一日。記録としては１９７８年に貝月山△1234 m（横山）の登頂はあるが、これは第二登だから本年は釈迦嶺の初登で記録をすっきり飾るべく私は、自我をお許しいただくことにした。

その日の暮れ近く予定した幕営地につく。右に冠山、左に釈迦嶺南稜、空に１１．３日の月があった。ここは冠峠辻、あるいは道の谷峠とでも呼ぶべき林道の片隅。私はそこに陣どった。

冠山と向き合って天幕内に落つくと、あとはゆっくり飲んで喰って、ねむくなったら寝ればよい。ただ一人超然と自然にとけこんでいる。私にあたえられた法悦的な逸脱境である。２０時３０分頃「ヨタカ」が近くで鳴きだす。名名を知らない鳥の声も混った。２１時すぎ、ガスが天幕を暫らく取囲む。月も彩環をかむっていた。２２時ごろ、「ヨタカ」のならす打楽器音につられて幕外に立つと、月は冴えて冠山が闇にうかび、就寝するには勿体ない景観であった。寝袋へ納まり、遠くでひびくコノハヅクに耳を澄ましているうちに私は眠ってしまった。小鳥が天幕のそばを歩く気配を感じる。水が欲しくて起きると、月は沈み、満天の星空、はやくも天幕は露をおびていた。

明るくなって、小鳥たちが楽しそうにさえずりはじめた。寝ていられなくなって起きてしまう。好天の上、食然まで意外にあって、たまらなくうれしい朝であった。

露だらけの天幕を撤収し、ソバクマタ谷、アジミ谷の出合をすぎ、約１キロ、トノゴヤ谷につく。地形図（宅良）で「道谷」註記がはさむ。釈迦嶺の△をさす水線。　私が予定してきた釈迦嶺の登路は、このトノゴヤ谷右岸尾根をのぼり、左岸尾根の下山、ただ駐車と渓谷渡渉の可否は気がかりであったのだが、駐車は林道が右へ小円する地点に、またトノゴヤ谷へは踏みしだかれた道がちゃんとあって、私をにんまりさせた。

林道からみる今日の釈迦嶺は、朝寝坊か、まだガスをかぶったままだが、トノゴヤ谷左岸尾根は釈迦嶺表玄関の風ぼうがそなわり、私はこれをたどろうと思った。つつがのうトノゴヤ谷に入れたが、道は左岸尾根に向わないので、新緑の茂みに分け入る。たちまち露が付着して身にしみ、眼鏡がくもって行動をさまたげられた。谷で道を捨てた事が間違っていただろうか。

びっしょりぬれて・735mへ一時間余を費やす。この峰では梢が風にうなり道らしい形跡がないのに、右から枝折がきていた。尾根筋は清風と眺望があり、藪の抵抗も柔軟に思えた。780mに可愛らしいガレ、ここから駐車地点がみえた。790mにもガレ、だが駐車地点はかくれた。

やがてブナが点在しだし、衣類の乾燥がはじまる。940mには立枯の巨樹、970mでは展望台になる大輪の伐株があり、金草岳△1227mと大ジラミ谷の植付けられた広い緑の斜面にみとれていると、トノゴヤ谷から思いがけない〝オーイ〟の声がかかってきた。入山者は私だけの筈だから私も応答すると、再び同じ声が返ってきた。私は声の方向を見廻したが人影を探しだせなかったので〝どこにいるんや〟とたづねてやった。どうしたことか、もう反応はなかった。

主稜にのぼりつくと美事な鉈目が刻まれてあり、この鉈目を伝わって釈迦嶺Ⅱ△1,175m標石地点に達した。登頂後、俄かにガスが発生し、わるくすると夕立を見舞れそう。だが登頂を果たした私は、あわてなかった。往路を下ってくると、不意に〝オーイ〟である。やはり同じ地点で人声のようにきこえ、今度も二声のみ。

どうやら私も、四ツ足くんからラブコールをいただける身分になれたらしい。花の色気にとぼしかったが、小鳥の声で満ち満ちたみづみづしい緑陰へ幸福感を抱いて埋没させてくれた釈迦嶺は、なかなかこころたのしい山である。

5月24日　名神、京都東14:04一関ケ原I.C 17:14一幕営地19:30

5月25日　幕営地5:50…駐車点6:15・735m 7:32～7:42大輪伐株9:48…主稜10:50釈迦嶺11:08～11:55…大輪伐株12:43…駐車点14:55～15:20…名神、関ケ原I.C 17:50一京都東I.C 19:05

日　照　岳

伊　藤　潤　治

登った山にもいろいろあるけれど、この日照岳ほど気長であった登山は珍らしい。というのは、1967年11月17日着で、現地、つまり岐阜県大野郡荘川村役場観光主任、吉田輝穂氏から「日照岳登山資料」をいただき、既に用意済みだからである。

これは1967年11月2日、今西錦司、藤井茂雄、大槻氏巴の諸氏で、御前岳△1816.5mと栗ケ岳△1728.5m（白川村）を登った折白羽の矢が立ったようだ。そのご年々予定にあげながらアプローチ、体力、技術等に不安も困難も感じない山地であるのに、なぜか単独行もできなかった。

1981年6月14日には、JAC岐阜支部主催の日照。だが雨天で無念の涙をのんできた。今年こそ、この延々を断とうと飯降山△884m（大野）を抱合せて、第1427回例会としてはなばなしく登場させた。ところが天気予報は芳しくない上に、私も不調におちいり、ぶっ倒れた訳でもないのだが、どうにも気合が入らず出発できなかった。例年この季節は過労のため、ちょいちょい山行を献

目にしてきた。この調子では、今年も日照岳は私の手に負えないと思った。そこで、藤井茂雄氏（ＪＡＣ岐阜支部）にご都合をうかがうと、氏におかれても久恋の山であったので、ご加勢をいただくことになり、去る６月５日、藤井茂雄氏（以下、藤井さんと略）とともに、立志以来１６年目にして日照岳の頂きに立てたのである。

５月１１日　藤井さんの快諾を得、その後三橋勉君からも参加表明があった。しかし前日になって三橋君は無念の不参、こんな不幸は対象の山が山だけにいろいろ心が痛む。

ここでこの山行のテキストでもあった吉田輝穂氏資料（書簡）を記載。氏のご厚意を謝したい。

「△1751ｍの日照岳は、国道156号線白川村尾神より片道四時間の行程で、頂上に立つ事ができます。登山には、国道脇の御母衣ダム尾神展望台より山中に入り、国有林地帯を進めば、△1409.8ｍに達し、これが二時間で約半分です。

ここまでは営林署の歩道がありますが、これより尾根づたいに二時間で頂上に立てます。この後半は、だいたいの道はあるようですが、地元の人は感をたよりに歩きますが、始めての人でも御母衣ダムが間近にありますので大丈夫です。

この辺りは尾神郷川側に降りれば何本も歩道が入っていますから、どこえでも降りられます。略図を書いておきますから参考にして下さい。（掲載図は藤井さんご収集資料、ちなみに、山名「尾神岳」には、白山との位置から「拝み岳」の意味があるのではないか）

また時期ですが、今年はもう雪がきて真白に見えます。春先ならば四月～六月にかけてが一番よいと思います。夏の最盛期は草木が繁って道を探すのに困りますし、三月頃四月の始めにも雪がある事と思います。

日照岳の名前の事ですが、「ヒデリダケ」とよんでいます。荘川の里で一番始めに朝日が当るのがこの日照岳です。従ってこの様に呼ばれたのだと地元の人はいっております。なお、この日照岳には「かもしか（天然記念物）」が生息して、頂上付近にはその足あとが沢山あって道になっていると聞いています。日本ザルも生息しており、キャーキャーと寄ってくることもあります。

尾神郷川右岸の大黒谷とアマゴ谷に囲まれた山は、「多高度」といわれる山です。この道にも歩道が入っており、日照岳より簡単に登れます。いづれにしましても、日照、丸山、別山、三ツ峰一ツ峰、丸山、芦倉山、天狗山、大日岳、大黒谷上流までの尾神郷川上流は荘川営林署の林道が入っており、自動車（大型トラック）が入っておりますから心配のいらない登山ができます。以上についてより知っており、実際に山を毎日歩いてみえる人を紹介しておきますから、お出かけの節はこの人（岐阜県大野郡荘川村牛丸、荘川営林署牛丸貯木場　栗谷孝俊氏（４０才）」

以上をいただいたのは、1967年秋だからちょっと年月を経ているが、本山行の予定は、この吉田氏資料のままによった。理由は、そのご植樹の成長にともなう作業歩道の整備、後半部でも尾神郷川側歩道からの踏跡やケモノ道など、登山にはおおむね好都合に展開しているだろうと、楽観してのことである。

6月4日（土） 藤井さんと18時すぎ大垣を発ち、御母衣湖畔で天幕を張り、就寝23時30分。6月5日（日）起床4時35分、尾神展望台で「命の泉」の水源、日照北谷右岸の送電塔巡視路へ、5時25分とりつく。左岸にわたり谷沿い道を捨てて尾根の急坂をのぼると、左からも道が合い三基中下段の送電塔下。最上段の送電塔で少憩する。展望はちぎれ雲のようなガスが、あちこち引かかっていて、せまくてうっとしい。今朝、天幕には一粒の露もみなかったのに、ここでは草木に露がとまっていた。

三基目の送電塔をすぎると枝葉に宿った露量が目立つ、不整備で歩きづらい道になる。道は尾根を忠実にたどり、図根点1409.8mの「荘六五」につく。ここで朝食をおいしくとった。いよいよ後半にかかるのだが、ルートは、一見尻込みしたくなるほどの自然林。つくづくここまでの道の有難さに頭の下がる期待に反した藪である。

藤井さんは、まだ露が残っていた林中を鮮やかな鉈での猛進。研料、特級清酒一本也のするどく冴えた切味のご先導をいただいて、まさに結構な樹林浴をゆく。近頃、私は鉈使いをさぼり、もっぱら枝折りにたよっているが、鉈の威力を眼のあたりにして鉈はやはり山男の魂だ。私の鉈もほこらしい腰の物として、常帯すべきだと自戒した次第である。

1530m地点に、尾上郷川側と「荘一〇九」の展望あり。「荘一〇九」、図根点1648.4m、ここについて日照岳西南稜の眺望ができた。前途は少し樹林帯はあっても、山容はすべすべとしてうるわしきタテガミ型をなし、稜線をビーンとはねあげ、心をときめかせる景。

だが登頂には、なお二時間が必要にみえた。藤井さんの、あれは、サシバでしようか、ノスリでしようか、感動的な語りかけで空をあおげば大型野鳥の飛翔があった。

「荘一〇九」の東北部に、ハイマツ群と低笹帯。これはッ前進がはかどると喜んだが、ほんの一部分で終る。

藤井さんの鉈は鞘に、ひたすら前進してもらった。その内に私の足が上らなくなり、馬力を出すべく昼食にしたが、食欲はともかく飲欲（藤井さんが用意して下さったウイスキー）まで出ないのには驚いた。この時は不調の故だと思っていられたのだが、あれは長時間登行不適の兆しでなければよいがと、今は不安である。

天が空き、どちらをみても身の廻りは笹群、どうやら「荘一〇九」から眺めて「すべすべとして、うるわしきタテガミ型をなす」あの稜線のつめにかかったのである。

黒い露岩があったが、岩に上る気力は出せず、一息ついて、また笹群を分け岳カンバの独樹を経て登りきると、360度を見廻わせる細見でにくいほど美しい頂上である。藤井さんに支えられた折角の360度であったが、遠景はガスにとざされ、わずかに別山と白山の下半身がちらり。三方崩山は何とか全姿をぼんやり見せたのみ。けれど、山頂にひざまづけただけで私は、感きわまり、ただただうれしかった。

下山は二人で踏んだ跡でもあり、登頂のよろこび等で流石に藪も苦にならず、特に「荘一〇九」から「荘六五」までは、藤井さんの大奮闘のたまもの、「藤井新道」のおかげですいすいと安楽にはかどり、大変ありがたかった。

第分图

飯降山にも登頂し、第1427回例会をはやく結実させたいものである。

6月5日　P.5:25…「荘六五」7:30～8:25…「荘一〇九」11:07～11:15…日照岳（尾神岳）…13:05～13:30…「荘一〇九」14:37～14:40…「荘六五」15:43～16:00…P.17:05～17:28…大垣20:30…帰宅22:30

第1432回例会

ファミリー登山

天童山と飯森山

津田　実

5月の集会で岡田部長から「オトウチャン、OBになったからと云うて知らん顔してんと、例会を一度担当してな」と云われた。別に知らん顔をしてるわけではないが、退職した者が現職の部員にアレコレ指図がましいことは、差し控えるべきが礼儀と遠慮していたのである。もとより好きなことゆえ部長の指示とあれば、ホンナラ及ばず乍らと、早速何処にしようと尋ねると、すると、注文が又むつかしい。「北山で、ファミリーが行けて、山らしい処やったら何処でもえゝ、考えてえな。」そんなこと云うたて、うちのファミリーは皆んなタフで老生がブッタオレて仕舞う程やさかいなー　愚鈍な頭を搾った結果、茶呑峠から天童、飯森山付近に、6月5日　集合場所は御室仁和寺、OBの関係上連絡係を三橋さんにお願いすることに成った。

当日は、大槻副部長の御光来を仰ぎ、三橋さんの車と老生の廈馬号と二台に総勢7名で大森へ向って出発した。参加者がタフな道中なので、行程を部報の逆コースである。大森の東の谷からナベクロ峠へ出て、飯森山、天童山、茶呑峠へ西の谷から中町へ帰えるコースへと変更する。

大森の西ノ谷と東ノ谷の分岐点に好い駐車場所があったので其処を拝借する。大森の東の谷は久しぶりだ。現職であった頃、大森の谷特有の赤い斑石をザックに入れたのは好いが余り重い（約20キロ位）ので途中で棄てようと思ったが、同行者に笑われるのが癪と我慢し薬師峠を越えて帰ったが、家でオバハンに背中を見て貰ったらズルムケになっていたことを思い出す。我輩も若かった。閑話休題。

東の谷をどんどん進んで行くと右手にナベクロ峠→と書いた指導標があったのでそれに従って進むと、途中で山仕事の人達が下草刈りの最中で我々が通るので手を止めて待って下さった。此の人達は生活の為に働らいていられる。我々は遊びで山を歩いているのだから丁重に挨拶し小さくなって通して戴く。

途中進路の判りにくい所には必らず指導標が付いているので安心して歩くことが出来、おおいに助かり縦走路に出られた。途中にチョット恐いところがあったが!!　ところが、此処でまたもや我輩特有の痴呆症が発症、大槻大先達が地図を見てナベクロ峠は左だと指示していられるのに、右やと頑張って右へ行ったら、これが大失敗エライスンマヘン、矢張り左でした。大方桟敷ケ岳の直登直下まで行ってから、引返すことになった。

往復２０分程の損でナベクロ峠に到着した。縦走路に出る手前で左へふるのを右へ行って仕舞ったらしい。谷の源頭部を歩く時は注意すべきである。地図も磁石も持っていたらマドンナに渡して好く地形を見なさいとエラソウナことを云って、自分が失敗して恰好の悪い話である。送電線の鉄塔のところで昼めしにする。どこかの大学の山岳部らしく揃いのユニホームに特大のキスリングの一行が出発した跡に陣どり、先づ缶ビールの栓を抜く。功ちゃんは例によってラーメン作りにいそがしい。出来上りを一寸と戴いたらモノスゴクおこられた。エライ、スンマヘン。天候がおもわしくないので急いで出発する。

もう何年前か忘れたが、村先輩と二人で此の尾根に挑み物凄い藪に阻まれ何回か敗退しているがその後は来るたびに径がよくなって来ている。嬉しいような、たよりないような複雑な気持だ。いまにも降り出しそうな雲に追われ、アッと云う間に飯森山から反射板を通過して天童山に着いて仕舞った。此処から細い尾根を降りて登り大きな松と岩のある地点で一本立て、茶呑峠へ降りる指導標を見落して仕舞い以前に歩いた径を降りたが、数年前はランラン・コースだったがその頃植えられた杉が２m位にのびて一寸したヤブのようになっていた雨具を付けずに三橋さんを先頭に急降下して林道に出る。

皆んなで茶呑峠迄行って地蔵さんに対面した。立派なお堂が建っていて吃驚りした。これでお地蔵さんも雨や風に晒されることもないだろう。有り難いことだ。駐車地点に戻り国境尾根を見るとガスがかかっていたが、片山さんにあそこからずっと歩いて来たのだと説明するとモノスゴク嬉んでいた。きめこまかに指導標を付けて戴いた茨工の方々に厚くお礼申し上げます。

〔参加者〕　大槻雅弘、村　宗松、和田良一、方山宗子、三橋　勉、Ｆ２、津田　実

〔コースタイム〕　大森東町 9:00…谷分岐 9:38…水場 10:15～10:25…尾根 10:40…ナベクロ峠 11:25…鉄塔（昼食）11:30～12:05…飯森山 13:00～13:10…天童山 13:43…展望台 14:00…茶呑峠 14:30…東町 15:12

第１４３４回例会

若杉山　その他

畑　照人

部報 216 号 故宮後前部長の『へそのない山』のへそを探しに行かへんかと伊藤大先輩に誘われて同行。日時を宮さん（一寸失礼）の誕生日、６月１７日に合わせて、１６・１７・１８とする。入梅おくれでお天気続きの後、これからという時に出発日の朝は雨となる。イヤな予感が的中した。然し高速道、大阪を過ぎ兵庫を通り岡山へ入る頃は晴れて来た。この調子でうまく行けば好天気？宮さんお天気にしておくれ。と祈りながら今日は湯岳を目指す。奥津温泉手前で道を西へとり踊堂橋で尋ねて六ツ合林道を北上。この道がまた大変な悪路。雑木の枝が視界を妨げる様に垂れ下ってフロントガラスを叩くのだ。自分の身体に当らぬのが判っていながら本能的に除けているのである。

もうこれ以上は進むのは無理？　車をUターンして駐車。広い道といっても到底車は無理だ。車止の牧柵あり、この辺から行けそうと判断して上る。だゝ広い裾野、成程放牧場らしい景色である。山道なんてない。「何処が道やね」「我々の今歩いている所が道や」小さな流れを２ツ越して直登、灌木帯を抜けると三角点へ飛び出した。先づは一ツ完了。その頃から空が怪しくなり始める。下りは牧柵に沿い進む。前方を見ると今迄気がつかなかったが、牛の放牧で牛共が草を食べている。雨がポツポツ降り出した。写真どうかなと思いながら１枚撮る。上る時は気が付かなんだがどちらが表でどちらが裏やら…。湿地帯には牛糞が多い。谷川へ行く水もこれが少し含まれているかも知れぬ。飲んだらどんな味やろね。元の牧場入口附近で山裾を走る小動物。茶色の兎である。矢張り自然は良いね。雉が車前を横切る。今度は黒兎が車と併走している。大先輩の愛車はジープ顔負けで悪路ものかわ、走る走る。（運転技術優秀なる為なり）　今度は羽出川沿いに西へ振り北上。田代峠を目指す。二軒屋の橋を渡った所で道路工事中、現場作業の人に峠への道を尋ねると行けないとのこと。踊堂まで引返し羽生西谷川を西へ進み若曽川を北へ大谷峠へと進む。雨降りガスが出て視界悪し。峠と思われる所で道路標識の通行止めが裏返しの為、そのまゝ知らずに進み工事中の現場へ出て引返す。道路標識は人のいたずらとは思えず風の為やろう、と善意に解釈して峠で一服。雨烈しくなり車中で昼食？　ガスが無ければ下界の様子がよく判るのに殺生な雨や、さて出発。これがまた失敗だ。西へ向い中和村の方へ行ってるのだ。新道の為行先標示が不備なのだ。また元へ帰り、大谷への下り路を見るが果して大丈夫やろか。下車して道路点検に歩く。土砂崩れが数ヶ所あり、ブルドーザーで整地してある。どうにか車通れそうだ。それにしても落石注意の所が多い。再び車上の人となりソロソロ下り始める。途中でマイクロで作業に入っている人々にあい、大谷への道を聞く。悪路は続く。やっと良い道へ出たら大谷区、大谷川の小橋を２ツ渡ったらのある処へ出た。ふと見ると公民館あり、この状態では天幕は無理と判断してこゝを借りられたらと村の家々を尋ねて歩く。どの家も全部留守。何かあると思ったら果して最後の家の老婆から「不幸の家が出たので皆そこへ集っとるで区長さんに会って頼みなさい」といわれ恐る恐る平身低頭して区長さんにお願いする。何しろ不幸中の取込みで忙がしくしていられるのだから…。それでも使ってよろしいと云われた時はほんまに助かったという感じ。大袈裟に申せば「地獄に仏」様々である。公民館へ荷物を運び入れた頃から雨が物凄く降る。「借りられてよかったね」と顔見合わす。テレビ電話、炊事場あり。風呂場が無いのが残念（ぜいたく云わんとけ）　雨は棒状に山や家の屋根へ突き刺す感じで何ともこわい見たいだ。天幕張っていこら逃げ出している事だろう。それを思えば此所はホテル並みだ。お膳を借りて夕食はゆっくりとお酒も一寸入る。

村内の有線放送も電話器が自動的に受信するのたね。これも初めて知った。少し小降りになる。窓から見る山々の線、水銀灯の灯火ガスが流れる景色。キャンバスへ書いた絵みたい。それに蛙の大合唱、遙けき山村へ来た別天地だ。今日もいろいろの事ありました。お天気も好し、悪天候もまた愉し。矢張り山行きはよろしいな。乾杯して夕食とする。

６月１７日　雨後晴　　オオウネ　　９７５．６ｍ

4:00 起床　雨は小降りとなったがまだ止まない。区長さんの住所とお名前を隣家で聞いて、御礼に金一封と名刺を添えて挨拶に伺う。若杉山林道の終り近くで家4軒あり、その中程であった。『放牧していた頃は道も整備されていたが、最近は牛も居らず、道も荒れて雑草雑木が繁り、土地の者でも入ったら元へ戻るのに難儀します』とのことである。舗装道も家のある所で終りである。その先は草の繁る地道だ。ほんの少し行くともう進めない。雨具の完全武装で出発。図上のどの辺を歩いているのか判らない。山の形を見ようとしてもガスでまるで駄目である。谷筋を二・三本かえて進むがひどいジャングルでどうもルートではないみたいなのだ。悪戦苦闘するも一歩も前進しているとは思えない。区長の言葉じゃ無けれどもそれこそ今来た道？も判らない様な始末である。雨はまだ降り続いている。視界ゼロ状態ではどうしようも無い。残念無念なれども引返す。大谷川沿いに下り三軒屋下畑を過ぎ座性寺から右折、田代へ向う。此所は中々立派な車道。ヘアピンカーブを上り高度を稼ぐ。雨は小降りから上りそうな気配，一寸したドライブ気分である。然しガスの為、カーブは気を付けないと大変だ。飯場事務所で田代村の位置を尋ねる。学校前を過ぎ、橋の拡張工事場を渡ると民家は終りである。民家のおばさんに若杉山へのコース尋ねる。『学校前から植林の為に村の人が入る道がある。皆それを利用しているのである。』との事、「よし、次回は此のルートが良いようだ」　大先輩決心したらしい。今日の目標、次は人形峠附近の山である。下西谷から天神川の橋を渡り国道179号線に乗り快適に走る。雨も調子よく晴れてきた。ルンルン気分だね。アレ立派なトンネルが開通している。とにかく一応通り抜ける。停車、人形峠へは何処から入るのか。少し進み右側のバス停見て停る。高清水高原への入口だ。これこれ間違いなし。可成走行した様に思う。ヤッと懐かしの峠である。ウラン鉱が発見されて一躍天下に有名になり観光のメッカとして栄えたものだ。今の新トンネルは昨年開通したばかり、それで今日此頃はバスが寄りつかず、峠はサッパリ閑古鳥の鳴く始末とのこと。そう云えば以前は瀬戸内から日本海へ出るのに必ずこの峠を越えたものである。トンネル1本の為にこうも変るものかな。オヽサンショウオの店の婆々様の話である。うどん一杯注文して濡れた衣服乾す。高清水高原は冷たくておいしい水が湧き流れているところからの名前という事である。日が照り出した。こゝも昔は売店等あり中々賑やかであったが施設が貧弱なために恩原高原に客をとられて口惜しいよ。又々老婆の悲しみである。975.6の△を目指し歩く。快適な散歩道と云った所である。サヽユリも咲き、白樺林もある中々の風情だ。ピークを2ツ越えた為に引返して直登。△の前に飛び出す。天気いよいよ良くなり、ガスも晴れてほんまによかった。360° 展望である。一杯の祝杯の美味、この快晴もう少し早かったらなあ…。然し慾は云うまい。これで結構。峠へ戻り今日は少し早いが奥津温泉泊りとする。車チャンも飲まず喰わずで走ってくれたので途中で満タンにする。『地図、よく見ててや、明日の山見ときたいし。』と伊藤さんに云われたのに気がつくと奥津温泉の看板である。何んや、もう来てしまった。宿泊手続終り、部屋決定。先づはお風呂へと飛び込む。アァー　疲れが取れる。錦山荘の責任者と云う方から附近の山名やお寺の由来を聞かしてもらう。大和の大峯山や役の行者と関係ある寺もあり、三ケ上というのは山上岳とも云うのか…。また木地師と製鉄関係、いわゆるタタラ師との子孫が現存している。鉄の取れる山あり、その原石を馬の背で運んだ道も残っているとか…。それ等を一冊の案内書にして発行計画中とのことである。鉄山ではコンパス

が効かないらしい。これは大変だね。玄食にビ甘ルで乾杯。大いにメートル上がる。？　温泉のよいところは時間制限無しで入れることだ。外出しても見る処なし。就寝。

6月18日　晴　4:00　起床　　花知ケ山

今日は最終日、最も好天気の日となった。せめてもう1日早かったらなあ。179号線を北上、山戸原橋を渡り暫らく川沿いの道を北へ三ツ子原へと向う。杉の並木道を越え鶯の声聞きながら幾つもの橋を渡り進む中に落石の多い悪路の様相に変り行く。『これより通行禁止，事故の責任負はず』の恐い看板が立ててある。セメント舗装の小道となる。途中倒木あり、枯れているから最近車は通っていないのかも、それを除き乍ら進む。メータービッタリ600mで林道終る。少し広場になっている。駐車。入山仕度して先づは山容偵察、何やら動物の鳴声が聞える。「鹿やで」昨日は雨の中で、カッコウとホトトギスの声を充分聞いた。ルート決定、広場から下るとすぐに小さな流れあり、渡って右へ進むが藪木で行手を阻まれて引返し、左へ入る。暫らくは緩やかな植林帯でスイスイだったが、檜の林から急斜面になりそれを越すと、ヤブとなる。根曲竹の密生で苦労しますよと聞いていた通りだ。天気快晴暑くなるが、ヤブの中通るため、それ程感じない。下山路の為に枝折し乍ら、或は赤布を枝に結びつけつゝ進む。私はどうもヤブ歩きが苦手である。経験が浅いのと技術不足という処でしようね。林道に駐車した車がよく見える場所で小休止。「稜線の尾根らしい所、「高い所を選んで歩きや」と伊藤先輩にヤブ道の歩き方、探し方を教えてもらいボツボツ上る。「この木に赤布を巻いといて」と云われた所でハッと気が付くと、地図を落して来た。サァ大変、今来た跡さえ分らぬのに引返して探そうにも自信がない。「下山の時、探そう。もう少しやから無くとも三角点へ行けるやろ」大先輩の言に救われた感じ。赤布をその辺に沢山つける。下山の時迷わばに此所へ到着出来る様に祈りながら、心は重く、足重くツルに身体は巻かれるし、靴紐は解けるやらイヤハヤ散々の態です。時々伊藤さんのコースに外れて迂回したりで、ほんまにしんどい事や。根性だけでは山歩けん。プラス技術が物言うのね。泣き泣きやっと△へ飛び出した時はほんまに神様仏様、おゝきに、オゝキニです。二日分の悪天候一ぺんに取戻した様な上天気です。360°の展望の素晴らしさ。（地図があったらもっと楽しめたのに御免ね）　大山の雄姿も高く、どっしりと見えます。三ケ上はすぐ目の前の下です。例の三角点祭り。御神酒で乾杯。空き腹に染みる旨さ、ほんまに五臓六腑に溶け込む感じです。

サテ昼食、またまた失敗。命の糧の弁当を忘れるなんて、どこまでも迷惑を掛ける奴やろ、情無いね。山頂はそんなに広くない。東側にルートらしい踏後が2本見える。今私達が上って来た道？は余り使われてないのと思うが…。充分景色を楽しみ下山にかゝる。普通なら上りは辛いが下りは楽々の筈。だがヤブ山はそうじゃない。スイスイとは行けまへん。枝折は今日のに間違いないが赤布を確かめつゝ下る。99%締めていた地図を発見したのである。まさに奇跡だね。よく見つけたと思う。自分は締めていたので探す気を失くしていたのだ。然しこの地点は大先輩のルートに外れている。赤布の文字（般若心経）のお蔭やろか。これで少々気分を良くして足が軽くなった感じだ。檜林の急斜面も過ぎ植林帯へ出てヤレヤレ。車へ戻った時はほんまに疲れがドッと出たみたい

である。太陽は烈しく照りつける。三ケ上への自信を無くして、またまた大先輩に相済まぬ事だが温泉へ戻る事に決定。谷川の水を飲むが大先輩はこの水余り美味くないね。私思うのに鉄のとれる山だからその辺に原因があるのと違うかな。

宮さんの御仏前へのお供えを買い、一風呂浴びて帰路につく。宮後さん宅へ寄り報告して帰宅した。

あさじ山のこと

地元では「あさじ」と呼んでいるのは「しなのき」のこと。繊維が取れてそれで放牧の牛の鼻木を作ったり、ロープにして使用したということである。その木がこの山に沢山あるので「あさじ山」とのこと。

「しなのき」にも種類があり、それらは全部繊維が取れるとのこと。又「あさだ」と云う木、これも繊維が取れる。あさじは「しなのき」の方言である。決定的な断を下すのには、山へ行き現物の葉と小枝を見せてほしい。（植物園の相談室の先生の言葉） 植物図鑑には「あさじ」は載っていない。

後記　宮後前部長の報告の通り900m から1200m級の山がゴロゴロあり、形の良い山や登って見たくなる様な山あり、ほんとうに山に魅せられる。伊藤先輩はこれからも再々来んならんなあ、然しどの山も花知ケ山みたいなヤブコギをせんならぬのと違うかな。京都辺と違って山が高いので雄大な感じがする。

〔同行者〕　伊藤潤治、　畑　照人

第１４３５回例会

鎗ケ先山

大槻雅弘

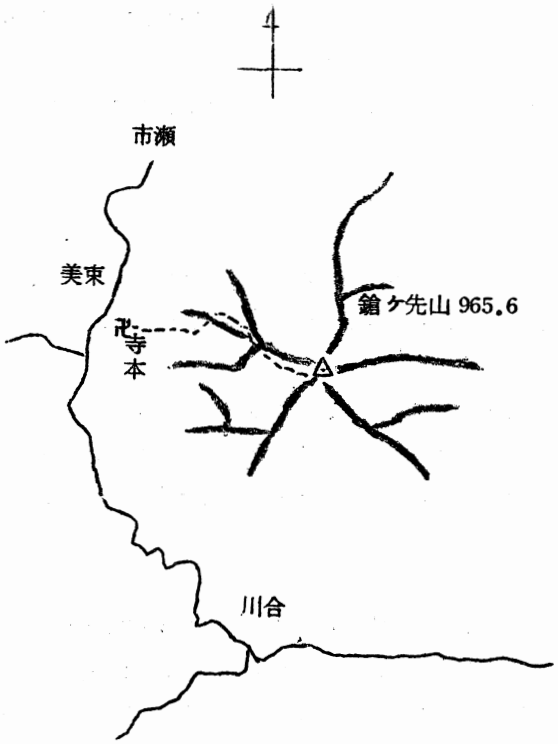
鎗ケ先山、それは北アルプスの槍ケ岳を連想させる。山名からは確かにそう思うのだが、残念ながら遠望と、登高は違う。やはり「美濃の山」の一族に入るのか、槍ケ岳とは程遠いイメージである。しかし、そうとは言うものの三角点直下の登りは急登であり、わずかながらも槍の穂に登った時を思いだした。

三角点の展望は良い。少しブッシュで見透しは悪いものの、小木に登れば360°である。目の前の伊吹から、連綿と奥美濃山脈の盟主能郷白山までが見渡せる。暑い日射しに、木陰を求め、食事と展望を楽しんだ山頂の1時間は早かった。

登り、苦労した径も下りは早い。三角点を出発して1時間15分で炭焼小屋に着いた。「呼び使いが来たので、お先に失礼します」と言って、今さきがた下りて来たこの炭焼小屋の主は我々と別

れ、足早に径を下っていった。

呼び使いが来たので一　何といい言葉か。小生はこの言葉が強く印象に残った。炭焼小屋に落ちている谷水はおいしく、カラになった水筒に水を満タンし、我々も主を追って下りると、すぐに出発した時の寺の屋根が見え、5分程で寺に着いた。



下りは、苦労する事なく降りられたが、登りは一部ブッシュ漕ぎを強いられた。

その登り径は、「小学生でも登ってますヨ」と言う地元の人の言葉と、「この竹藪の道を行きなされ」と言って案内してもらった老人の親切に疑う事なくとった径が10分程で消えていた。地図上には、一つ尾根を越さねばならない。イバラの中を藪漕して尾根を越し、しっかりとした径に出るまで、約1時間のロスをした。この径に出た所が炭焼小屋の上部、200m程の所だったのである。

「ぎふ百山」岐阜山岳連盟発行によるコースより、我々のとったルートは三角点へは直登ルートを登った事になる。いずれにしても、美濃の山は「藪漕」と言う先入観があるので、失敗したり、また思いもかけぬ立派な道があったり、とにかく楽しませてくれる。

また一つ、赤線が入り山名が消え、次の登高意欲をそそるのも美濃の山の良さである。

〔同行者〕　方山宗子、三橋　勉、大木秀実、岡田茂久、吉田　武、大槻雅弘F3

〔コースタイム〕　寺8:00…9:10尾根（A）…9:27（B）…休憩…11:08三角点12:35…13:55寺

企画運営リーダー会

8月18日（木）　大倉宅

第１４３６回例会

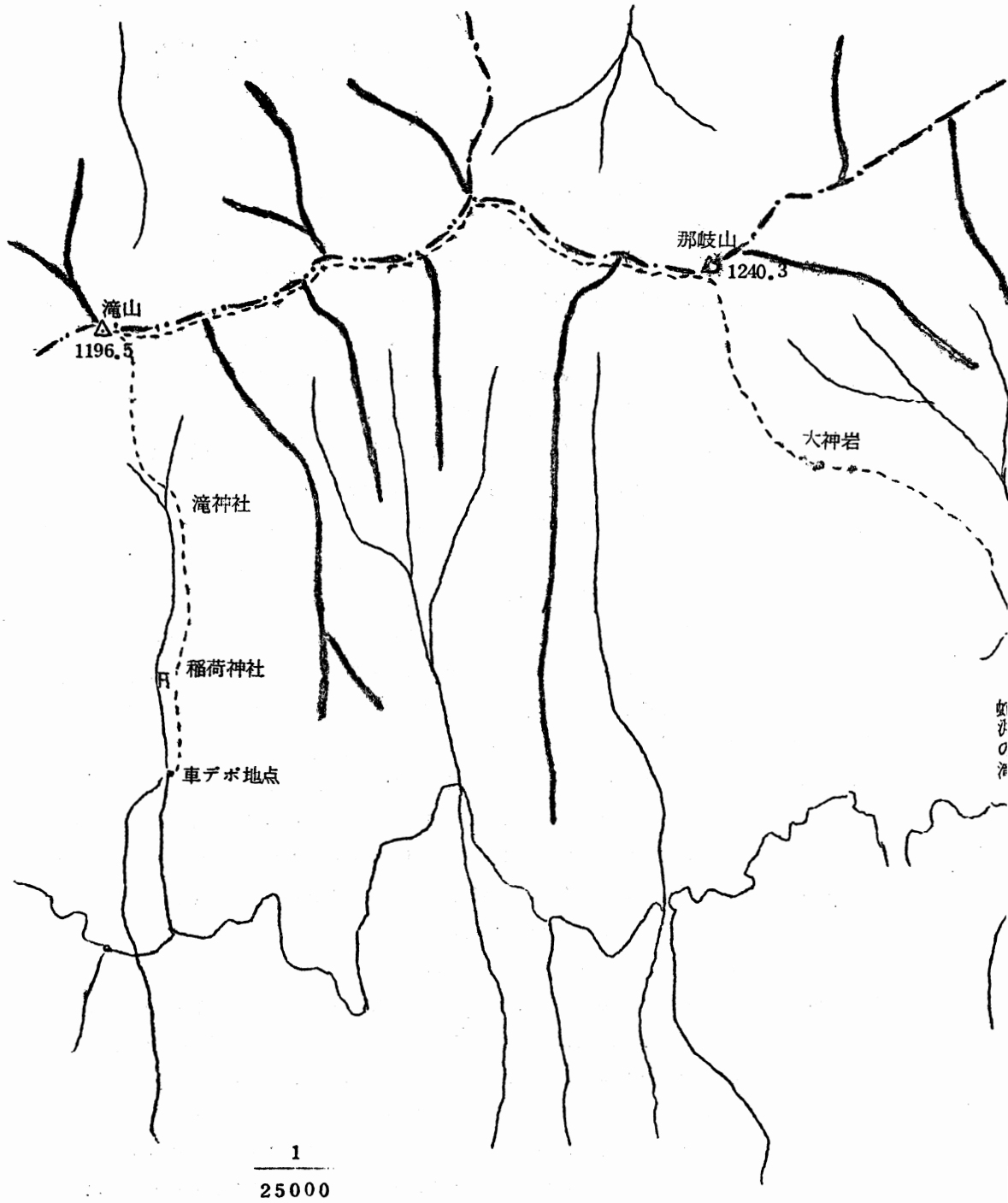
那岐山から滝山縦走

梅津　吉田　武

梅雨の時期なので天気は期待していなかったが、２日共好天に恵まれた。京都南ＩＣより美作ＩＣ、そして豊沢でタクシーに後に付いて来ていただく。滝神社の下、標高約４９０ｍ地点へマイカーを置き、タクシーで那岐山登山口まで乗せてもらった。蛇淵の滝の分岐を過ぎたあたりから道も悪くなりタクシーの運転手に気を使いながら標高５９０ｍ地点まで乗せてもらった。那岐山や菩提寺はハイキングの対象になっているので道も良く踏まれている。伊藤さんは快ピッチで流石多く山を登られているなあと思った。大神岩まで２ピッチ位で途中８００ｍ地点で昼食をした。中国地方の独特な山波に目を奪われながら尾根伝いに登る。やがて那岐山の三等三角点につく。東に三室山、日名倉山、東北には氷ノ山、西に泉山、近くにはこれから行く滝山がきれいな山容を見せていた。熊笹の中にくっきりと縦走路が滝山まで続いている。当初、那岐山と滝山を別々に登ろうと思っていたがタクシー代、チップ含めて４０００円也ですばらしい稜線歩きが出来た。これはすべて伊藤さんの提案でほんとうに良かった。滝山の登りに少しブッシュを漕いだが我々にとっては、まだまだ良い道である。滝山一等三角点で本日２度目のバンザイをした。本年度に入って大日岳、長老ケ岳につづく３つ目の一等三角点である。ここから見る那岐山は流石に高く標高差こそ６０ｍ弱であるが、それ以上にボリュームを感じた。滝神社への下山路は急坂で一気に５００ｍ程を下りると、滝の所に神社があった。ここより道もゆるやかになったので車がデポしてある所までノンストップで降りた。時間があれば爪ケ城へ登る予定であったが無理なので、明日の登る山、天狗寺山の登り口国広部落へついた。公民館の前にある食糧品屋さんにあつかましく公民館で泊めてくれないかとお願いすると、この村の副会長に聞いて下さいと答えられたので５０ｍ先に乳牛の飼育をされている副会長の牛舎へ行って聞いてみた。「泊まってもけっこうです。」そして「水道もガスも使ってもらってもよろしい。」と大変親切にしてもらいました。寝る前には風呂も入れてもらい湯上りのビールもいただき何も言う事なしで、一日の山旅も終りました。

〔参加者〕　大倉寛治郎、　伊藤潤治、　吉田　武

〔コースタイム〕　梅津車庫 8:40 ―名神京都南Ｉ．Ｃ 9:04 ―中国道入口 9:24 ―山崎バリアー 10:35 ―美作Ｉ．Ｃ 11:00 ―奈義町役場 11:28 ～ 11:35 ―滝神社駐車場 11:43～ 12:00 …那岐山林道途中で下車、高度計６８７ｍ　12:26～ 12:28 …登山道との出合 12:38 …尾根との分岐（指導標）ある所 12:44 …直登尾根との出合で昼食 12:51 ～ 13:20 …大神岩 13:38 ～ 13:45 …１０７１ｍピーク 13:53 …那岐山三等頂上 14:15 ～ 14:40 …滝山一等頂上 15:50～ 16:35 …滝神社への分岐 16:38 …滝神社 17:19 …駐車場 17:35 ～ 17:45 ―大篠国広公民館 18:45


那岐山
1240.3
滝山
1196.5
大神岩
滝神社
稲荷神社
車デポ地点
1
25000

那岐山　　その二

伊藤潤治

きのうは「好都合」と「よろこび」の整列だった。特に、松本福男さん（副区長）方でもらい風呂を許され、那岐山、滝山の汗を流し、そのあと松本父子から酒食をふるまわれ、これもご厚意にあまえて十二分に頂戴いたしたものである。

大篠（おおささ）の公民館で二日目（6月29日）を迎えた私たちは昨日につづいて、吉田君の愛車で天狗寺山（津山東部五万図葉）に向う。吉田君は1976年9月19日、私より先に三ツ又△1,065m（横山）を登頂、瞠目させた猛者。その彼にこのたび宿願の同行がかなった。

また大倉君は1980年3月8日、天狗バタ△848mとタカイヲ△801m（小浜）がピバークに発展し、焚火のために惜しみなく奮闘してくれた猛者。この度はこの両君に何かとお世話になって歩けるたのしい山行である。

ここで、めざす天狗寺山について、松本さんの話を記しておく。天台宗寺院、天狗寺が山にあったので山名ができた。ここでは、ただ天狗寺と呼んでいる。後谷から奥谷へ越す地点を「ライハイ」という。奥谷の奥に「ニオードウ」の地名があるが。現地は植林となり、ちょっと分らないでしよう。　以上。

ジェット機さながらの勢いで「ライハイ」を越え、下茅（サガリガヤ）川をさかのぼって林道終点につき、植林内の道をたどれば間もなくで谷に面して行詰った。こんな所で途絶える筈がないので探索すると、道は草の乱雑でたくましい繁茂に侵され、ほとんど全滅の有様。

露をたくわえたそんな草の群にたち向ったから、たちまち否応なしにぬれただれた。ゴム長靴と防水ズボン着用の若い両君は、たわむれ遊ぶたのしさのようであったが、私は不快にたえられず、左岸の尾根に上ろうと、悲鳴をあげてしまった。

下草の手薄になっている植林斜面を縫いながらのぼると、東側斜面が伐採してある明るくて爽やかな尾根に出た。微風をうけて、右から小さい尾が合う北向地点まで登ると、かなり着衣の水分が抜けゆとりの気分も湧き、また伐採域の上限でもあり少憩する。

そのごは細道のつづく「郡市界」をたどる。やはり草木は茂り露にもぬれたが、山頂をめざして急ぐ私たちの足は、もう、ひるまなかった。

天狗寺山二等△832mは柔かい緑草の中にあり、見晴しのよい山頂、この日の空は雲が多く眺めはせまかったが、あちこちからウグイスの声が透き通り爽快であった。

吉田君は、標石付近をていねいに除草し、三角点だけを撮影した。彼によれば登頂証明という。これほどの確証はなかろうと感心した。

はじめこの二日目の山の候補として、大倉君は爪ケ城山を推し、私も同感であったのだが、宮崎

日出一兄の個人山行記「山岳巡礼、第３４号」により、「天狗寺山と入道山」を知り、先づここに天狗寺山の後塵を拝したのである。

私たちのルートは、ほぼ「ＭＨＫ（宮崎日出一兄の略）テキスト」どおりであり、以下参考までに「ＭＨＫテキスト」を収録させていただく。「一林道終点は地図で下茅峠の１５ｍ／ｍ下方の地点、山道に入り間もなく道二分、右をとり磁石で東をとる。尾根に出ると短い間隔に赤布がある。快適な登りだ。露岩に突当り、ここからは展望が良い。暫くイバラを分けて登り着いたすぐ右側に△がある。天狗寺山Ⅱ△８３２ｍ櫓が倒されている。頂上はＷＮ－ＳＥにかけて長く、ススキが茂っているが展望は極めてよい－　ＪＡＮ－１５。林道終点１２時、天狗寺山１２時５０分。」

私たちは往路を下山。林道終点６時４５分、尾根８時２０分、天狗寺山９時５分～９時４０分、林道終点１０時２４分。

つづいて入道山（津山西部五万図葉）をめざす。「ＭＨＫテキスト」は、「一入道山△東１３ｍ／ｍ地点から、左の山道に入る。植林、やがて雑林に遮られるので、左上へと登る。急登である。小岩の急斜、尾根直下にトラバース道、右へとり鞍部に出る。そのまま踏跡の尾根を登る。△の東北峰に出る。雑林の中、ここから本峰との間に中峰あり、この稜線は素晴らしい展望で、いぶし銀の泉山に息をのんで立ちつくす。花知仙も角ケ仙も見える。左に有刺鉄線が張られているのは、昔日の牧場跡であろう。本峰登りは中途半端な笹と雪、左へゆるく曲ってゆく。入道山Ⅲ△７５２ｍ、積雪１０cm、標石を探し回ったが見つからず、足さぐりはやめて本格的にと思った頃見つかった。

山頂は１５坪位いのススキで展望なし、中央に３ｍ位いの松の木あり、対空標が結ばれている。その松の木の西方２ｍに２cm位の灌木の一束があるが、その北側根元に標石がある。静かな山頂で眺めはなくとも快よい。小鳥が、カサと音を立てて珍らしい山旅人をうかがいにくる。時を忘れる思いがする。－　ＪＡＮ－１６、出発８時１０分、東北峰８時３５分、入道山９時～９時３０分、出発点下山１０時１０分。

私たちは、「林道が右へ直角に曲る」寸前の右側に駐車し「ＭＨＫテキスト」に従う。水流に沿って左へのぼり、植林斜面を急登、左から尾根が合う５４０ｍで一息つき、伐採斜面のトラバースから自然林に入る。ここで入道山を正面にあおぎ、すぐ入道山を左に見ながら、有刺植物のはびこる植樹斜面を顔や手にトゲを立て、目に汗がしむ強登で７１０ｍ地点（東北峰）、こんなトゲだらけの山は、若い時ならともかく、近頃はどう思案しても好きにはなれない。

中食のあと「郡市界」に出る。急に西側がひらけ歓声をあげた。歩行も容易であった。ここは「ＭＨＫテキスト」の「素晴らしい展望」の稜線である。しかし展望はせまかった。けれど稜線の緑の色は素晴らしかった。方向を東に転ずると、一変してがっかりさせる。むさくるしい笹と灰暗い木立。たどりついた山頂は、入道山という山名から丸坊主を連想してしまうが、そこは静寂につつまれた雑木林。標石を確認して私たちは、よくぞ耐えたりと自賛、ほこらしい歓びにひたった。

ごきげんでいると雨、しかし下山中に雨はやみ、往路をなやましたトゲも不思議と出ず、足下に思わぬ展望等があって気をよくする。

P．11時15分、710m地点、12時30分～12時55分、入道山13時14分～13時40分、P．14時25分

ぬれたり刺されて悲鳴まであげたが、すんでしまうと、とっておきの山であったような気がしてきて、また、よかったなァとうれしくなってきた。

お世話になった松本さんと水島酒店へお礼に立寄り、若大将と女主にごあいさつのあと、中国、津山IC、15時55分入線、京都南IC、18時15分、天王山トンネルを抜けると、山で汚れた車を洗ってくれるためか大夕立、私たちは満ちたりた思いであった。

補記

拙稿にご登場いただいた宮崎日出一兄は、山岳の事柄すべてに卓抜してお出の、素晴しい岳人でいらっしゃる。この宮崎日出一兄から私は、いろいろを学び、いろいろをあやかって、貧しい私の山の総ての糧にと考え、この度「山岳巡礼第34号」から「天狗寺山と入道山」を、「MHKテキスト」として持たしていただいたのである。さぞ、「MHKテキスト」の簡潔なる名文、風の如き所要時間には驚かれたことであろう。まったく羨しいご才能に、向後は皆さんと共に、大いにあやかりたいものである。

丹後半島の5山をたずねて

大　倉　寛治郎

△鼓ケ岳二等△569.0m

5月18日、再度丹後半島の山に奥村、荒田両先輩と私の3名で、午前5時過に御室を出発する。今回の山行は縦貫林道に面する鼓ケ岳、嶽山、角突山と京都府最北依ケ尾山、それに金剛童子山の5山をめざす、少しよくばった計画となった。

9号線は早朝というのに京都市内に向う車が多い。観音峠のトンネルをぬけると一面深い霧で、対向の車のライトが、すりガラスを通して見ているようにボンヤリと光っている。こんな霧も、福知山をすぎる頃にはハレ、与謝峠を下ると晴れ間が広がり、大江山、江笠山等が望める様になる。加悦町でガソリンを補給し、宮津市国分より左折、成相寺参道を走り途中参拝をし林道を登る。道はあまりよくない。左に無線塔やパラボラアンテナがある。そこを回り込んで行き、縦貫林道と出合う所に鼓ケ岳登山口、頂上へ500mの標識がある。登山道へ進むと道は広く整備されていて10分位で展望台に着く。鼓ケ岳△569.0m二等三角点へ難無くの登頂だった。三角点は左の方にあり新しいのと取り替えてある。展望は360度、海、山と風景は誠に申し分ない所である。また柳平△679.1mの左には、丹後半島最高峰△702m独標（山名ナシ）。その西に高尾山（久住岳）△620.2m、下ゑ

磯砂山△661.0m、南に大江山△832.5m、天橋立、由良ケ岳△640m、多称寺△556.8mと数多くの山波が見られる。

嶽山△三等637.4m

縦貫林道を上世尾の手前で左折（縦貫林道角突線）に入ること約1Km前方左に小高いこゝもりと見えるのが嶽山である。登山道は、宮津市が新たに開発した嶽山遊歩道が頂上まで整備されていた。登り道は尾根筋に階段状の道が頂上まで続いていて、歩幅が合わず苦労をする。頂上は広く三角点の廻りをのこして整地された広場には芝生が植えられている。奥の方で雑草やしげみの中に頭を2cm位出しているのを、少しまわりを堀りおこして、三等三角点嶽山637.4mを確認する。

海も山も大変よい眺めで登りのしんどさも忘れる。それらを写真におさめ、ここで三人はそれぞれ林間散策コース（奥村氏）、若狭湾眺望コース（荒田氏）と別々に下山。私は往路を下山し車を廻して2人を待つ。

角突山△三等628.9m

嶽山頂上で山容を確認し登り口の見当をつけておいたのに、オーバーランしてしまい、地元の人達が道路作業をしていたので聞いてみたけれど、わからなかった。地図を見直し、少しもどり、谷筋を高度差5.60m、距離約120mを夜つゆでぬれた植林と雑草の中をかきわけ、かきわけ登った。熊笹におおわれた中に角突山三等三角点を見つけた時には、一同、やっと登った！と顔を見合わせた。ずぶぬれのズボンも気にならなかった。展望は、三角測量の為の切り開きの所でしかできなかった。そこから尾根筋にそって下ると約3分位で林道へ出る。

依遅ケ尾山△二等540.0m

再び縦貫林道を走り、スイス村、碇高原牧場をぬけ、国道178号線（丹後半島一周道路）を上野に出る。犬ケ崎～産土山古墳を左折し是安へ出る。登山口の案内標識から左へ、吉永、矢畑の村へと廻りくねった田畑の中を走って林道へ出る。800m位入った所からは、山水でぬかるみ、林道も生い茂っているので80m位バックし広場に車を止める事にした。早朝出発で体もガソリン切れなので、目ざす山を望みながら昼食を取る。満腹はなると、太陽と青空の下でこのまま昼寝をしていたい気持だ。一服後、出発。登り道は雑草とあざみが茂り、急な登りでジグザグに登って高度をかせぐ。ひと汗かく頃から、なだらかになっている。石で組んだ祠の中には役行者が祭られている。そこから少し北に、ヤグラの下に雑草におおわれて二等三角点依遅ケ尾山△540.0mがある。丹後半島最北の頂上からの展望は実に素晴らしい。青く澄んだ空、日本海のなんともいえない海の色そして山波。前回に登った権現山や笠岳、太鼓山、柳平、来日岳等々数多くの山々が望める。

金剛童子山△三等613.4m

府道満谷から外村をぬけ来見谷へと向ったが、外村よりの道は通行できないとの事で、黒部から

味土野のコースを取る。途中で、ジュースと食糧を補給する。味土野へはガラシャの里と書いた案内が出ているので迷うことはない。村の手前には滝があり、ガラシャ荘が見える。その上の方に史跡、細川忠興夫人隠棲の地、弥栄町ガラシャ夫人の碑があり、前には水準点回370mもある。見学の後ガラシャ荘の横に車を止め、廃道となっている所から登山口2Km、40分の指導標を谷にそって約800m登ると（高度450m）昔、耕したとみられる畑あとがある。530mピークをまき、尾根に取り付き少し行くと等楽寺よりの道の分岐がある。途中には石仏があり、数分登った所で、小祠を祀った頂上に着く。祠の奥数mの所に廻りを石で組んである金剛童子山三等三角点613.4mがある。本日の予定の5山を完登したのを祝って、バンザイとカンパイをし、写真におさめる（20万分の地図には二等になっているが、確認したところ三等であった）。展望もよかった。足どりも軽く下山味土野を後にする。

峰山町の公衆浴場で、本日の汗を流し、さっぱりとした気分で軽い食事をする。御室に着いたのは21時58分であった。早朝出発と縦貫林道の開通で、短時間で登る事ができた。今回も又、よくばった山行であった。

〔参加者〕　奥村弘信、　荒田又之助、　大倉寛治郎

〔コースタイム〕　5月18日

御室5:03ー福知山6:26ー加悦町7:07ー成相寺7:35～7:51ー鼓ケ岳登山口7:59～8:03…鼓ケ岳二等頂上8:09～8:21…登山口8:27～8:30…嶽山登山口8:52～8:55…嶽山三等頂上9:05～9:28…登山口9:32…嶽山登山案内標識駐車場9:34～9:43…角突山直下の谷9:58…角突山三等頂上10:12～10:28…縦貫林道10:31…駐車登り口10:35…林道広場駐車地点11:42～12:15…依遅ケ尾登山口12:28…依遅ケ尾山二等頂上13:00～13:37…登山口13:57…駐車地点14:08～14:12…細川ガラシャの里15:20…山の家ガラシャ荘、駐車する15:35…登山口15:37…金剛童子山三等頂上16:05～16:35…ガラシャ荘駐車地点17:10ー峰山町17:57

会費受領

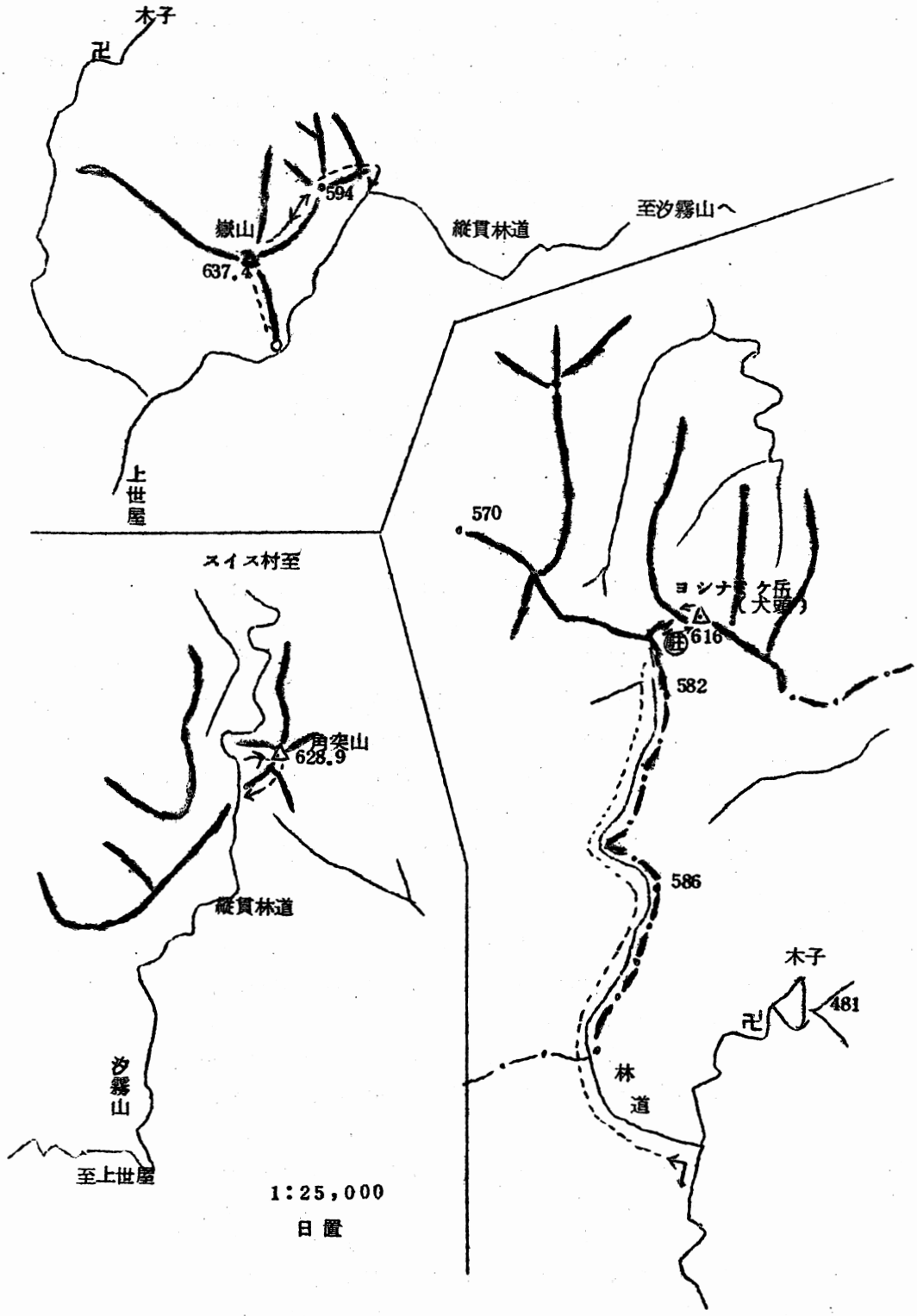
（本局）　三浦貞義、平田嘉輝、木下嘉造、松井郁造、渡辺智生、長谷川雅也、宮川　勇、田中　明
関本俊雄、石田　弘、平野　裕、前田文男、上田　隆、大槻雅弘、山元誠一、谷尾嘉津子
渡辺朋子、平岩康子、大熊周子、佐々木敏雄、山田富男、藪田民栄、足立公弘、笈田　昭
沢井佳三、桂　豊、樋口由紀子、原田加津子、和田良一、井上一夫、広瀬光太郎、
楠とし子、鷲見敏一、大木秀実、井戸登夫、若山裕孝、鎌田利雄、岡本　孝、大杉雅晴
猪飼康夫、柳田　晃、三橋　勉　（OB）上原昭二

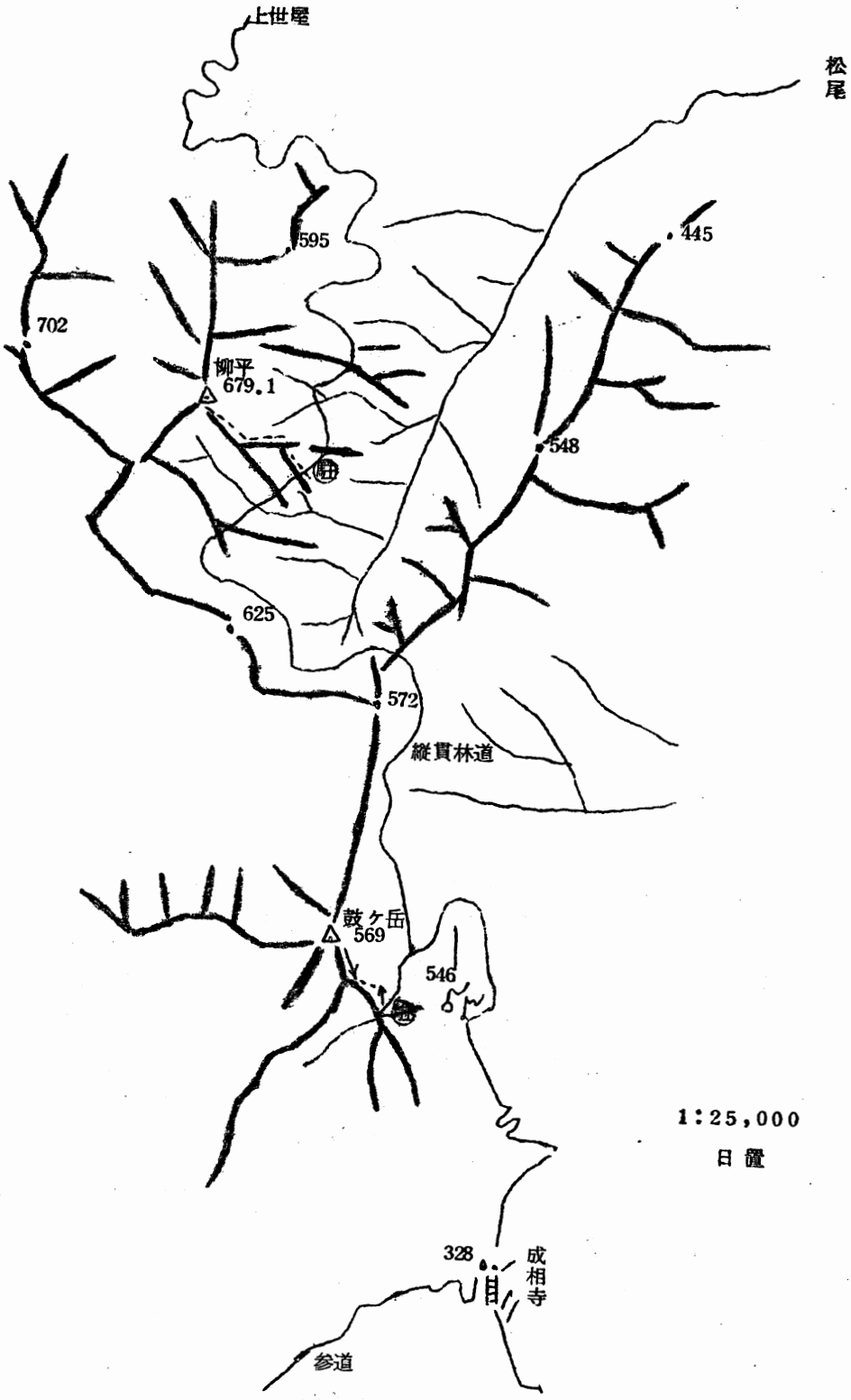
（高速）　村　宗松、辻　久雄、滝　裕、大切照男、宮川康博、伊達寿一

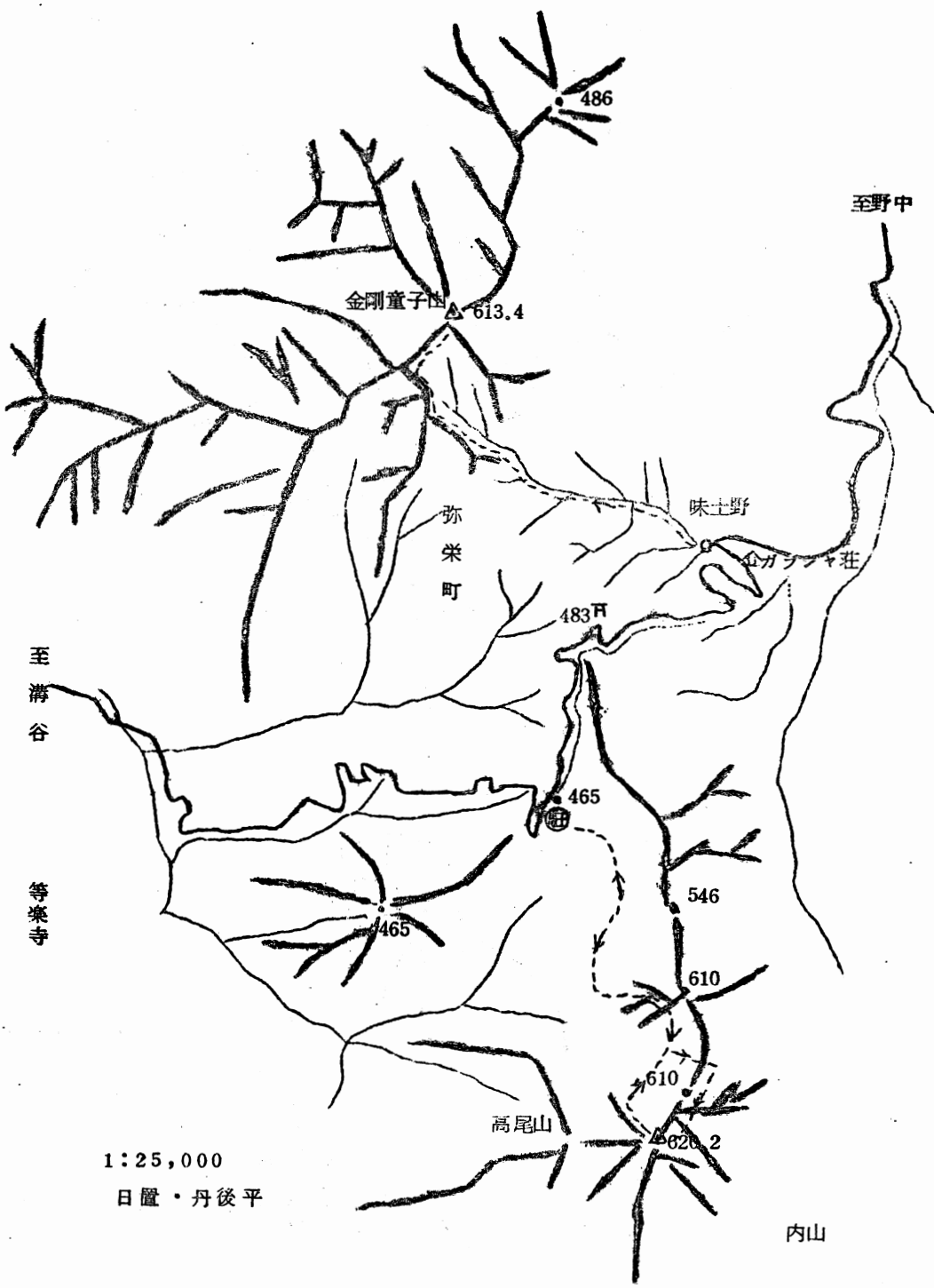
（梅津）　蛭子野俊雄、楳木敏夫、吉田　武、篠野　治、篠田真三、入江健治郎

（醍醐）　岡本　勇、長畑喜和、北川　晃　（五条）盛田雅樹

（九条）　古市昌造、横井襄二、大槻貞従、木水善美、上島和彦、松浦伸吾、荒川幸雄、田中忠久、
加地卓男、雨根田一男、村野忠雄　（高野）森本清一


木子
594
嶽山
637.4
縦貫林道
至汐霧山へ
上世屋
570
スイス村至
ヨシナ[illegible]ケ岳
(大蟹)
616
582
角突山
628.9
586
縦貫林道
木子
481
汐霧山
林道
至上世屋
1:25,000
日置


上世屋
松尾
595
445
702
柳平
679.1
548
625
572
縦貫林道
鼓ヶ岳
569
546
1:25,000
日置
328
成相寺
参道


486
至野中
金剛童子山
613.4
味土野
弥
栄
町
483
至
溝
谷
465
546
等
楽
寺
465
610
610
高尾山
620.2
1:25,000
日置・丹後平
内山

丹後半島飛び歩き山行

大　倉　寛治郎

「お父さん、公休日家にいる？」の声に、「いや、又丹後半島の山の登り残した所へ行く、朝早いので弁当をたのむ。」「また！　続けて丹後ばかりやネ。」と不服そうな声が返ってくる。「丹後の魅惑に酔いしれているのや…」などと御託を並べ、6月11日、奥村さんと吉田君の車で午前5時過、御室を出発する。亀岡から福知山、与謝峠、宮津市国分から成相寺参道へと走り、鼓ケ岳登り口に着く。カメラと地図、双眼鏡を持ち、それぞれ長靴スタイルで頂上に立つ。吉田君は三角点をカメラにおさめる。前回見落した柳平679.1mの山容地形を確認して下山する。縦貫林道を地形と地図とを見合わせて進む。松尾から大きな谷があり、それにそって登山道が続いている。対岸の548mピークと大きく広がった谷の出合、高度約470～500m位に林道があり、その広場に駐車する。落石防止ネットがあり左右の谷の右の方から取付く。急な尾根を立木や雑草につかまりながら登り稜線に取り付いたところから踏跡がある。雑木をかきわけ200～300m行くと柳平、679.1mの三角点と対面、感激の一瞬である。残念だったのは樹林が生い茂り展望ができない事である。

続いて嶽山△637.4mへ登り、西北に見える△616mヨシナミケ岳、犬頭の地形を確認し下山する。木子の手前分岐より3800m、高度550mの所から左折、林道を走る途中草が茂っている中をつき進み終点の広場まで着く。少しの行動食を持ち出発。茂ってはいるが踏跡にそって行く。しかしそれもだんだん不明になり、見当をつけて頂上めがけ、イノシシのように植林と茂った草木の中をつき進みようやく頂上（ヨシナミケ岳（犬頭）三等三角点△616.4m）へ出る事が出来た。展望は三角点測量の切り開きからできる。往路下山し再び吉田君と角突山へ登る。続いて六山目の高尾山へ、スイス村を通り野中で食糧を仕入れ、味土野でルートを検討し、等楽寺へのコースを取る。途中から用事で里へ帰っている岡田部長と無線交信を取り、我々は高尾山を登り、下山後合流して金剛童子山へ登る事になった。

等楽寺へぬけると思われる林道を行くと、始めは舗装のよい道が続くが途中から工事中の為2ケ所ほど危険な箇所や渡がある。ヘタをすると〝カメ〟になりかねない様な所をなんとか通りぬけると、新しい取付道路の出合に合流する。ここに車を置いて植林の道を行く。畑家等が見られる山は伐採され営林署の試験植林地でもある。高度440m位の生い茂った道を行きピークを巻きすこし登ると又、山を巻くように進み、路のない茂った斜面をジグザグに登りきると尾根筋に出る。頂上はまだ南の方向だった。根の曲がった竹のブッシュの尾根筋をつめると三等三角点620.2m高尾山に接する事ができた。かろうじて金剛童子山が望めるだけで、展望はダメだった。下山は尾根を下り生い茂った草の中の踏跡を足でさぐりながら駐車地点までもどる。

岡田さんと合流して２台の車に分乗、往路をたどりガラシャ荘の横に駐車し、吉田さんと岡田さんは金剛童子山へ向った。前回に登っている奥村さんと私は、途中から山菜を取りながら下山する。

帰路は、網野町の岡田さんの実家へおじゃまする事になり、木津温泉（３９°）につかり、汗とつかれを落とす。夜食まで頂き、お母さんや奥さんには大変お世話になり申し訳ない事でした。

この何回かの山行で感じた事は、読図がしっかり出来ないと楽しい登山も苦労が多く、時間切れで登頂できない事もあるという事だ。

〔参加者〕　奥村弘信、　吉田　武、　大倉寛治郎、　岡田茂久（途中より合流）

〔コースタイム〕　御室 5:08 ―須地 5:59 ―福知山 6:30 ―成相山参道入口 7:24…鼓ケ岳登山口 7:35～7:40…鼓ケ岳頂上 7:46～7:55…登山口 8:01…縦貫林道広場駐車地点 8:20～8:30…柳平頂上 8:53～9:05…広場駐車地点 9:19～9:22…嶽山登山口 9:35…嶽山頂上 9:42～9:46…登山口 9:51～9:54…林道地点 10:08～10:12 ヨシナミケ岳（犬頭）頂上 10:29～10:57…林道終点 11:13～11:17…角突山登り口 11:34…角突山頂上 11:40～11:42…登り口 11:45…野中 12:10～12:20…味土野 12:27…林道合流地点 13:16～13:20…高尾山頂上 14:25～15:05…林道合流地点 15:50～15:58…ガラシャ荘 16:10～17:41…丹後木津 18:24～20:15 京都御室 22:59

個人山行

雪彦山ロックトレーニング

6月14～15日　　萌　　椰　子

6月の南アの赤石岳が中止になり、それならばと例によって岳人クラブ広沢さんのお荷物となりつつ又もや、岩肌の上を這ってきました。6月13日は朝から雨で仕事が終ってから出発しようと相談していたのを中止にして、14日の朝4時に広沢さん宅を出発。

昨日とうってかわった好天候の中を高速道を利用して2時間半の走行で雪彦山坂根のキャンプ場に到着す。ジョッキングシューズにザックを背に夢前川を廻り途中より地蔵沢に入り一汗も二汗もかいてやっと地蔵岳正面壁下部のバンドに着く。一本立てた後に用意を整え（ザイルは9ミリダブルを使用）まず一本目は加古川ルートから同窓会ルートⅣ・AI・120m、2～3時間コースのところを3時間で引っぱってもらい頂上へ。

昼食を摂り12時迄で休みをとる。その後は縦走路より地蔵沢へ下り今度は紅菱会ルートからダイレクトルートⅣ＋・AI・110mコースに向う。このコースにはルート図に載ってないコースがあり、又ピンが飛び抜けたのやボルトの折れたのもあり、トップを行く広沢さんは慎重の上にも慎重に攀る。3ピッチの目の終り近くのハイバンドに出る手前では岩の剥離した部分があり、これ

は半年程前の事故のあったとこではないかと聞き夢中で通過、4時間かかってやっと頂上着。極度の緊張感から解放されて縦走路を通ってキャンプ地へ降りる。

テントを張り売店へ行き缶ビールを仕入れてカンパイ。夜食をおえて遅くまで話がはずんだ。15日朝は寝すぎてしまい4時半起床、5時半出発。今日のアプローチは少し短く、登攀地点の場所も広いが全体に岩壁が頭の上にのしかかる感じで、三峰のダイレクトルートⅠV+・A2・140m・3〜4時間コース、用意を整えてビレーを取り彼を見送る。私の視界より彼が消えて声だけが、解除!! ザイルUP!! イッパーイ!! おねがいします!! 大声のやりとりの後、手近のボルトにアブミを掛けて体を乗せる、そこまでは順調に進む。そこからが私の苦しみの始まりで、5m程は腕力で攀るがそこより上は体がきりきり舞をして全々上方へ進まなくなる。これは駄目だ、進退伺を出さねばならぬか？と思いつつ又、広沢氏も見かねてコース変更しようかと問うてくれるが、ねばりにねばってワンピッチだけで私の所要タイムが2時間に近かったと感じたが記録する余裕はなかった。A1とA2の差の大きさを体で味わいました。前傾壁での小レッジでアブミビレーはつらい、早く解除の声がこないかと思いつつ次の作業へ。松の木のあるバンドのビレー地に着いてホッとひと息。喜んだのもつかの間で今度は大きな能峰の羽音に脅かされる。1mも離れてない所で巣作中!! 音を立てぬ様にあまり動かぬ様にザイルを送る。次の難問は帽子の庇の様なハングを乗越すこと。少し無理な感じなので長い目のシュリンゲを置いて先へ行ってもらう。それでもアブミの掛替えや回収作業を宙吊りでやるので呼吸が吹子のようだ。

上段バンド近く傾斜が少し楽になれば今度はピンもボルトも無い。草付きの中へ指をつっこみ小灌木の根本をつかみ恐る恐る這い上る。血圧が上りぱなしで手の指先までが勝手に呼吸している様子。樹林帯に入りビレー解除で頂上へ、せまい岩の上に腰をおろし、まずは水・水でカラカラの口に水を含む。時間は12時半を過ぎていたようで私の調子を見て、本日のところはこれまでにしよう、ゆっくり休んでくださいの言葉にやっと解放された感じで目の前の不行岳の壁が聳えるのを眺め、その奥に大天井岳の壁がまだ高く聳えたつのが眼に入る。

北側には不行沢を越して昨日登った地蔵岳が少し傾いた感じでそそり立つ。当分の間は岩壁は見たくないと下山するが、どうしても40mの岩壁の懸垂下降をやらねば下山出来ぬ仕組になっているのはまいった。多くの利用者があるのか残置シュリンゲが束になっている。それを使ってエイト環で降下、今にも動き出しそうなチョックストーンを過ぎ、平らな川底を歩いて気分の高ぶりも納まってくる。

テントを撤収して車に荷物を積み駐車場横の河原で体の汗を洗い衣替えをして帰路につく。A2のトレーニングはどうしたら上達するのかと考えつつ、今回も苦しいトレーニングであった事を報告します。

大　峰　山

畑　　照　人

6月29日・30日　晴

昨年2人でお参りしたが、T君不調の為今年は単独行となる。洞川で泊るのも初めてなら同じコースを往復するのも初めてである。どうせ洞川泊りなのでゆっくり出発。12：30発下市口駅からバス利用。昨年の水害で崩れたバス道路も今拡張工事が進みスムースに走れる。いつ来ても流石に涼しく景色良ろしい。地元では関西の軽井沢ですと云っている。90分で洞川着。夕食6：00、明日に備えて足馴らしと法力峠へ行く。快調に歩くが中々峠へ着かぬ。時計を見るとそんなに時間が経ってない。予定は約1時間。幾つ上り下り、鼻を廻ったか…。今度峠へ着かなんだら引返そうとも思ったが遂に峠着。矢張り65分かゝった。道の下草が両方とも刈り取られて歩きよい。山上辻への道も同じく巾広く刈られている。峠から観音峯へのルートも少し刈られているみたい。以前に来た時は物凄いブッシュで入れそうにもなかったがこれなら行けそう。よし、これで道路状況よろしいね。宿へ帰るか、然しである。ポツポツお下りだ。この前の若杉山といい一泊の山行きとなると雨に会う。イヤだね。雨具持っていながら全部宿に置いてきたのだ。不安定な空だと予報が出ていたのにね。五代松鐘乳洞附近では本降りとなり、走り走り帰る。木立の間を抜けるので割合に濡れないが汗で下着が絞る程となる。すぐ風呂へ入れてもらう。何と申しましてもこんな時は入浴が一番である。充分温まってさて食事、ビール一本一人で乾杯。明日の晴天を祈る。雨は夕立であったらしい。

30日　水無月神事の日である。5時、目が覚める。もう寝られない。年中5時起床が身についてしまった感じ。今日は良天気らしい。「五代松鐘乳洞のビデオ撮りが3時頃から始まるので、よかったら立寄って見たら…」と民宿の主人赤井氏が云う。7時出発。大峰大橋から表コースを行く。昨日の雨で空気は冷たくきれいだし、木々の緑が一段と美しい。

日は照るが冷たい空気でそれ程暑さを感じない。昨年の水害で流れた山道も丸太材で丈夫に補修されてスイスイだ。鶯の声や名も知らぬ鳥の声、下草の間をコソコソと歩く鳥の赤チャンも可愛いね。山へ登る楽しみを充分に味わう。洞辻茶屋はもっと上やと思っていたのに今日はもう着いたという感じだ。30分歩いて5分休みのペースがよかったのか、疲れを感じないのである。此所で大休止。キジ打ち、鐘掛けを過ぎ、西の覗きでゝ休止。写真とる。もう本堂が近い。毎年の宿坊である東南院へ立寄り参拝の挨拶をする。本堂再建の観進帳あり、？円を志納。本堂へ参る。今解体の為の足場素屋根張りの工事中である。集印帳に御判をもらいお花畑へ行きビックリ。何と自動車道の為お花畑寸断、ヘリポートも出来ている。これではお花畑が可愛そうね。作業員の宿舎も二棟あり、こゝ暫らくは殺風景な山上となることだ。工事終了後はお花畑復元されると思う

が…。約3年半ときく。宿坊へ戻り昼食、熱い番茶を水筒に貰って出発。「雨降るかね」「夕方まで大丈夫」とのこと。岩がぬれていたのでレンゲ辻への下りは中止して往路をまた行くことにする。洞辻茶屋まで来るとまた腹の調子一寸おかしい。キジ場利用、13時半のバスに乗りたいので大急行で下る。大峰大橋まで何と45分だ。我ながら驚く。上りは93分だから半分の時間である。洞川着予定通り13時30分、所がこゝで残念無念。バスは5分前発車したとのこと。これは全く私の不注意で時刻表の見誤りであったのだ。ホンマにアホやなあ…。後発は2時間半待たんならんのだ。然しよいこともある。運転手さんと仲良しになり、バス後部席で横になり寝さしてもらう。元気恢復。下市口駅から特急で帰宅した。

特記　大峰山上は今『オオヤマレンゲ』の花盛りでした。天然記念物です。

例　会　報　告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1432	城丹国境 尾根	6月12日	曇後雨	津田　実	方山、大槻 三橋F2 和田、村	雪の城丹国境を53年に歩いてから久しぶりに夏道を歩いたがよく踏まれたよいコースであった。　別稿報告
1433	赤石岳	6月15日		大倉寛治郎		都合悪く中止する。
1434	中国地方の山々	6月16日 ～18日	雨時々曇	伊藤　潤治	畑　照人	梅雨の晴れ間をねらったが、予定どうりは登れなかった。　別稿報告
1435	鎗ケ先山	6月26日	晴	大槻　雅弘	方山、三橋 大木、岡田 吉田、大槻 F3	貝月山に50年にきて以来の美束であったが、さすがに伊吹山が大きく、それに続く北尾根の展望がよかった。別稿報告
1436	那岐山　他	6月28日 ～29日	晴	大倉寛治郎	吉田　武 伊藤　潤治	昔、交通局に弟が勤めていましたという話で公民館にお世話になった。　別稿報告
1437	夏山トレーニング 地蔵山	7月　3日	雨後晴	岡田　茂久 大槻　雅弘 武田F1、三橋 ゲスト参加　高橋	渡辺智、荒田、鷲見F1 方山、岡本	厚生会夏山トレーニングという例会なのに、ほとんどリーダー陣ばかりが参加したのでは何にもならない。それでも厚生会の

						高橋さんが、初めてなのに１８キロほどの行程をガンバッテよく歩いてもらった。芦火谷のユリ道が大変よかった。帰り道に竜ケ岳小屋の前まで来ると林道がきていたのにはビックリした。 〔コースタイム〕　清滝 9:00…空也滝岐れ 9:25…月輪寺 10:10～10:40…愛宕参道 11:30～12:30…旧愛宕スキー場跡 12:50…地蔵山１等△ 13:33～13:55…芦見峠 14:30～14:40…竜ケ岳小屋 15:40～15:50…首無地蔵 16:00～16:15…空也滝岐れ 17:05～17:15…清滝 17:30（バス乗車 17:43）
1438	夏山トレーニング 湖南アルプス	7月10日	晴	鷲見　敏一 F１	津田F１、奥村、石田 渡辺朋、谷尾、原田 三橋F２、和田、大杉 井戸F１、伊達F１、田中 ゲスト参加 立花、浜田 古川、梅垣 竹田	先週の悪天候から一変して好天となったので参加者がもう少しふえるかと思ったが、結局２５人となり、石山駅から９時すぎの臨時バスに乗車し枝町で下車し、公園で本日のコース説明のあと、参加者を紹介し体操で体をほぐして9時５５分、全員元気よく歩き出した。当初先頭グループが２５分のところで休憩したが、最後尾は３０分間歩く事になる。先頭と後で２５０m程間隔があく事になるので、出来るだけまとまって歩くよう指示する。　次号報告

雑　　報

7月集会報告

１１日　下鴨寮

出席者　ＯＢ　津田、山村、奥村、近藤
本局　鷲見、方山、和田、山元、井戸、三橋、大槻
高速　岡田　梅津　吉田　九条　田中、古市　烏丸　大倉
洛西　広瀬　市役所　荒田　以上　１８名

本日の講師　広瀬担当より「山の天気」について、沢山の資料を配布してもらって、ラジオ放送のテープで、各地の天気と船舶の報告及び漁業気象について学習し、予定の時間を上まわる、8時１５分となった。参加者に宿題まで出してもらって有意義な時間を過すことが出来た。

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331(代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7－30
TEL 521-7541代～4

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

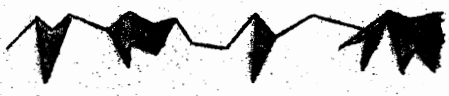
一年中、山用品だけの
プロショップ

おかげさまで創業1周年を迎え、
店も大きく、商品も充実させて
頂きました。もちろん開店以来の
全品徹底バーゲン価格も続行中！

LOG CABIN

ログ ケビン

京都市中京区御幸町通錦小路南入
☎(075)221-7569 〒604
(寺町の一つ西の通りの鈴上ル東側
阪急河原町(新京極通)より徒歩3分)



真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を
確信ある価格で……

KOJITSU

好日山荘

河原町六角下ル東入
TEL 241-1731

山岳書 電話ノ本にて
無料配送

ゆかり書房

075(801)8333

昭和58年8月1日

京都市中京区千生坊城町48

京都市交通局内
京交山岳部

お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。
改築期間中（約1年間）は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先　本店2階
京都市中京区西ノ京円町24
ダイヤ運動用品株式会社

まかせて下さい…ネ
山と乃キー
のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は ぜヒ 御相談下さい

山とスキー専門店
ビッグホリイケ

河原町店　上・河原町通丸太町東入
TEL 222－0363

御婚礼
御引越
きおん　菊水　専門

きおん菊水運送株式会社

山科配車センター
京都市山科区西野山階町12－12
TEL(075)581－3101
本　社
東山区大和大路通四条下ル　541－2345
鴨川営業所
中京区室町二条上ル　256－3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄

左京区川端通丸太町下る下堤町88
TEL (075)771－3442

山とスキーの店
京都あるぺ

京都市中京区新町三条上ル
075－[illegible]5－0288

HIKE & CAMP

この用具の事ならユニシルバー番だ!
御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の

中京区二条通河原町西　TEL 231－1302